

ではないかね。」

「はい、私の家は祖父も父も金掘り職人で、私も金山で働いていましたが、このごろ金あまり出なくなつたので、山を下りたのです。」

「ほう、では石が森や金掘あたりの、昔鉾山で働いていた人を知っているね。」

「はい、知っております。佐藤さま、いよいよ飯盛山の洞門掘りが始まるのですね。」

久作は頼母のやしきにつとめているので、豊助のやっている仕事は知っていません。

「佐藤さま、洞門を掘るのでしたら、金掘り職人だけでなく、慶山の石切り職人もきつと役に立ちますよ。それに慶山石はお城の石垣づくりにも使われ

たし、藩の工事にはきつと協力してくれますよ。」

豊助は、久作をたずねてよかつたと思ひました。洞門の工事になると、今ま